

令和5年度 第2回学校関係者評価委員会（報告）

鹿児島県立与論高等学校

- 1 日 時 令和6年2月15日(木) 午後2時40分～4時30分
- 2 場 所 本校図書室
- 3 出席者 (1) 学校関係者評価委員(4人)
与論中学校長(教頭代理)、与論町教育委員会事務局長、与論町副町長、
学習塾まなび島塾長
(2) 本校職員(8人)
教頭、事務長、
4部主任(教務、進路指導、生徒指導、保健)、1～3学年主任
- 4 日程等 (1) 授業参観
(2) 評価委員会(教頭挨拶、本年度の教育活動総括(各部)、協議(学校評価、意見交換、提言・要望等))
- 5 質疑応答・意見・感想
 - 計画性のなさは地域で取り組む課題。アンケートから学習への意欲が学年が上がるにつれて高まっているのがわかった。
 - アンケートにある「人権」に対する意識の低さが、具体的にどのような場面に表れているのか、今後機会があれば、教えてほしい。
 - 中学生3年生の1割を超える人数が島外への進学する状況について、地域を含めて取り組む課題ではないか。
 - 先生方への日頃の教育活動に感謝している。
 - 今の高校生は与論の文化・歴史・環境・行政について関心があるように見えているが、アンケートにそれとは逆の意見があるのはどういうことだろうか。
 - 保護者が、与論高校での学びについて理解できていないのではないかと思うので、保護者への丁寧な説明が必要である。
 - 平日のアルバイトについて、教えてほしい。
→平日の時間は、放課後から19時まで。土日のいずれかは休む。学校活動を優先するように事業所にも伝えてある。
 - 制服の自由選択を中学校でも考えたい。中学校では令和8年度から変える方向で検討しているので高校とも連携して情報交換をしていきたい。
 - 高校3年生の内、進路決定者16人、未決定10人ということだが、今後の進路決定の見通しを知りたい。
→国公立・公立短大の受験を予定している。
 - (先の質問を踏まえて)中学校での課題は、生徒に粘り強さが欠けていること(家庭学習の少なさ。コロナ禍の影響か、簡単に学校を休みがちなこと)であるので、中学校でも、高校卒業後の進路まで見通しを立てさせることで、学校生活を意欲的に取り組ませたい。
→高校卒業後は進学希望が多いので、基礎学力を小中高でつけさせる取り組みの必要性を感じる。
キャリア教育は中高合同で取り組んでもよいのではないか。